

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立和知中学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1実践テーマ	【 IV 】
2実施対象者	中学1年生11名、2年生16名、3年生16名 計43名 保護者・教職員・行政関係 計31名 総計74名
3展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（PTA 親子人権講演会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4目 標 (ねらい)	聴覚障害者と聴者で構成される手話グループのパフォーマンスやノンバーバルコミュニケーションのワークショップを通じて、多様な価値観を持つことや広い視野でものごとを見たり、考えたりすることの大切さについて親子で学ぶ機会とする。
5取組内容	事前学習：令和2年11月～ 特別の教科道徳における、関連項目の学習（各学年） 講演当日：11月23日（月）午前9時40分～12時30分 親子人権学習 手話エンターテイメント集団オイオイさんによる講演 及びワークショップ 演題「手話エンターテイメント集団による、手話体験を通してのバリアクラッシュ」 事後学習：公演後、学習のまとめ（各学級） まとめ作文課題（家庭学習課題） (1) 取組の計画 本事業の計画に当たり、一昨年度に取り組んだ、海外から来られる人々に対するおもてなしの心のあり方や、異なる価値観や文化に対する理解。昨年度に取り組んだ、異文化理解やジェンダーフリーの学習等、ここ2年間の取組との継続性を加味しつつ計画を進めた。パラリンピックの価値である、1. 「Courage（勇気）」 2. 「Determination（決意）」 3. 「Equality（平等）」 4. 「Inspiration（インスピレーション・鼓舞）」についての学びにつながる講演及びワークショップを目指し、校内やPTAで検討を進める中で、手話エンターテイメント集団 oi oi さんの存在を知り、パンフレットやホームページでの紹介や、実際に参加されたことのある先生からの感

想を聞く中で、今回の趣旨にふさわしいということで依頼したところ、取組の目的等を理解いただき、快諾していただいた。

oioi さんには、事務的な連絡だけでなく、学校や地域の様子等も伝え、子ども達や地域の実態に合ったものとなるよう工夫していただいた。

(2) 当日の様子

講師の oioi さんには開演 2 時間前には来校いただき、学校長や担当者との最終的な打合せ、会場準備とリハーサルを綿密に行った。

講演は、クイズ形式を取り入れた楽しい活動でのアイスブレイク活動から始まり、明るい雰囲気スタートした。ハリウッド映画をモチーフにした約 20 分の映像作品は、制作に時間や費用をかけた本格的なもので、大変見応えがあり生徒にもインパクトのあるものとなった。制作費用は活動の理念に賛同する人々からのクラウドファン্ডによって捻出されたことを聞き、これからの啓発活動の在り方についても参考となった。



講演の中では、笑いや驚きとともに話が進み、自然と「聞こえ」の違いに対する理解や手話に対するイメージも前向きなこととして捉えられるようになっていった。oioi さんメンバー 4 名のうち、聴覚に障害のある人が 3 名と、手話通訳の方に来ていただいたが、障害を乗り越えてきた経緯や、手話をはじめ、さまざまなコミュニケーションの方法を工夫することによって、世界が広がる、世界が変わることを分かりやすく伝えていただいた。



感染症予防のため、ワークショップも制限の多い中での活動となったものの、実際に手話でやり取りすることそのものを楽しんでいる様子が伺えるなど、思った以上に簡単に始められることに多くの生徒が驚いていた。手話が身近なものというイメージに変わっただけでなく、これまでの自分の考えていたものとのギャップの大きさが、よい意味で驚きや新しい気付きとなり、ポジティブな気持ちでその変化を捉えている様子であった。事後のまとめや感想の記載にも、そうした思いが多く見受けられた。そして、講師の方の意図した「バリアクラッシュ」を実感できるものとなった。

6主な成果	<p>生徒達のまとめや感想を見ていると、学習する前と学習し体験した後、手話そのものや障害を乗り越えながら夢を実現していくことに対して、プラスイメージに変化していることがわかる。</p> <p>SNS 等の広がりでコミュニケーションの手段が多様化する一方で、人や集団との関わりに問題を抱えている生徒も少なからずいる中で、コミュニケーションの意味や目に見えない壁の存在、それを越えることの大切さを考える機会となり、これからの生き方のヒントとなることを得ることができた。</p> <p>【生徒の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話は難しそうというイメージがなくなりました。むしろ楽しいなと思いました。顔で、体で感情を表現する楽しさを知れてよかったです。 ・たくさん学べたし、とっても楽しかったです。クイズを通して、話を聞いて「人それぞれ」というのを改めて考えられました。 ・楽しさ、感動、しあわせをたくさん感じた2時間でした。実際にやってみたとき、とてもワクワクして新しい人たちとのつながり方、コミュニケーションの取り方に楽しさを覚えました。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>オリンピック・パラリンピックの理念と人権という観点を結びつけ、「多様性の享受」をキーワードに講師の人選から事前学習、当日のプログラムを検討した。講師の oioi さんとの打ち合わせの中でもねらいとする部分を理解いただき、当日のプログラムを組み立てていただいた。コロナ禍で開催そのものが懸念させる中、できる限り広い会場を使う、換気を行う。検温や手指消毒、健康観察用紙の提出、大きいスクリーンの使用、広めに座席間隔をとる、参加者の絞り込む。ワークショップの活動はペアやグループの活動を行わない。学習のまとめは各学級で行う等の対策を行う中で、実施することができた。oioi さんからもドラマ形式の動画を送っていただき、普段の活動の様子や伝えようとしていることの思いをある程度知った上で準備を進め、当日の運営に活かすことができた。</p>
8主な課題等	<p>東京オリンピック・パラリンピックが延期となり、ややその理念についての学習を進めていく機運が低くなりがちな中での計画となった。オリパラの理念と SDGs 等の学習を結びつけながら、相乗効果ある取り組みになるためには、教職員一人一人や子供たち、保護者にも計画段階から、学習の目的や意義を理解してもらうように啓発する必要がある。今回は人権学習と兼ねた学習で、講師の方のパフォーマンスの効果もあり、それぞれが差別や偏見をなくそうと意識し、それが集団の行動となることを期待できるものとなったが、学校での人権学習と結びつけるなどの広がりには限定的なものとなった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>3年間の取り組んできた中で、車椅子バスケットボールの体験、異文化理解とおもてなし、アートを通じた多様な価値観の享受、手話体験を通じたコミュニケーションの在り方の理解等、多面的なアプローチを続けてきた。東京オリンピック・パラリンピックが延期されたこと自体は残念であるが、全世界的なスポーツの祭典をコアとした、こうした学習は工夫しながら続けていきたい。</p>